30周年記念号原稿

「知識・芸術・文化情報学研究会」を振り返る

Study Group of Informatics on Knowledge, Art, and Culture

村川猛彦^{1*}

Takehiko MURAKAWA^{1*}

1 和歌山大学

Wakayama University

〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930

E-mail: takehiko@sys.wakayama-u.ac.jp

*連絡先著者 Corresponding Author

関西において、芸術・文化、およびその他の関連する分野の情報・知識研究に興味のある学生および若手研究者を主に意識し、発表・交流のための場を提供するため、「知識・芸術・文化情報学研究会」を2011年度に発足させ、2012年1月21日を第1回とし、年1回のペースで、本稿執筆時までに7回の研究集会を開催してきた。筆者は世話役の一人として、初回より運営に携わっている。

本学会の関西部会およびアート・ドキュメンテーション学会関西地区部会が共催していることから、この研究会では関西の学生・若手研究者らの応募を勧奨しつつも、発表者の年齢や研究年数、また所在について、制約を設けていない。開催年月日および発表内容（発表者、発表題目ならびに要旨）は、回ごとにページを作成して、関西部会ページ[1]よりリンクしている。開催日および発表件数を表1に示す。最も西では佐賀大学の方による発表があった。関東か

らの発表も少なくない。記録を見る限り、北海道・東北からの発表はまだない。

表1 知識・芸術・文化情報学研究会開催状況

	開催日	発表件数
第1回	2012年1月21日	13件
第2回	2013年2月9日	7件
第3回	2014年2月8日	10件
第4回	2015年2月7日	13件
第5回	2016年2月6日	6件
第6回	2017年1月21日	7件
第7回	2018年2月10日	8件

注：第3回は特別セッションの講演1件および発表2件を含む。第4回は特別セッションの発表3件を含む。

この研究会では「予稿集」を発行していない。運営側で、発表要旨などをまとめたプログラムを用意し配布するほかに、各発表者にはレジュメを予定参加者分だけ作成し、会場に持参してもらっている。筆者

が関わった範囲で、発表者が資料を持ち寄るスタイルの成果発表の場として、1990年代に参加していた「暗号と情報セキュリティシンポジウム」が思い浮かぶ。セキュリティへの関心そして聴講者は年々増加し、個人的にそのシンポジウムに参加しなくなった回から、予稿集を発行する形式になった、という話を、何年か前にこの研究会の開催挨拶に使わせていただいたことがある。

筆者の研究室とこの研究会の関わりについて述べておきたい。各回、研究室の大学院生1〜3名に発表してもらってきた。いずれも博士前期課程（マスターコース）の学生であり、2年連続して発表した者も5名いる。

和歌山大学大学院システム工学研究科においては、例年、2月の上中旬に修士論文の提出ののち発表会を実施している。この研究会にM2学生が発表する場合には、修士論文と同じ成果であることが多い。M1学生の発表となると、修士研究の中間段階の報告となっている。

ところでこの研究会は単独発表でも連名による発表でもよく、申込時の氏名および所属をそのまま開催案内やプログラムに掲載している。筆者の指導する学生についてはこれまで単独発表とさせているが、資料準備やリハーサルなどは、共著の場合と同じように時間をとって指導している。

内容は、デジタルアーカイブ、テキストデータベースおよび全文検索、Webサービスの

構築を中心に、研究室での活動を踏まえつつ、基本的には各学生の成果をそのまま報告してもらっている。この研究会で厳しい意見をもらったのち、6ページの成果に取りまとめて5月の年次大会で発表させ、学生奨励賞をいただいたこともあった。

学内でも、博士前期課程の学生が順番に研究の進捗を報告してディスカッションをする場がある。学生の発表頻度はおおむね半年に1回であり、発表内容に対して点数が付けられ、進捗の思わしくない学生には教員間で（本人のいないところで）意見交換がなされる。したがって大学（卒業研究および修士研究）においては、学術成果よりも、学生の「頑張り」を重視することになる。それに対してこの研究会では、点数や順位を付けたりすることはない。それでも、興味深い発表と、発表の仕方にさらなる努力が必要な発表を知ることができる。それはシステム構築や定量評価といった、問題解決における本人の努力量よりもむしろ、手がけるテーマの魅力、もしくは解決すべき問題がどのようなものであるかについて、発表開始の数分で、適切に話せているかどうかにかかっているように思われる。

参考文献

- [1] 情報知識学会・関西部会.
<http://www.jsik.jp/?kansai> (2018年10月31日参照)